

# 味の素グループのマテリアリティ

## ■ 「21世紀の人類社会の課題」を解決するために

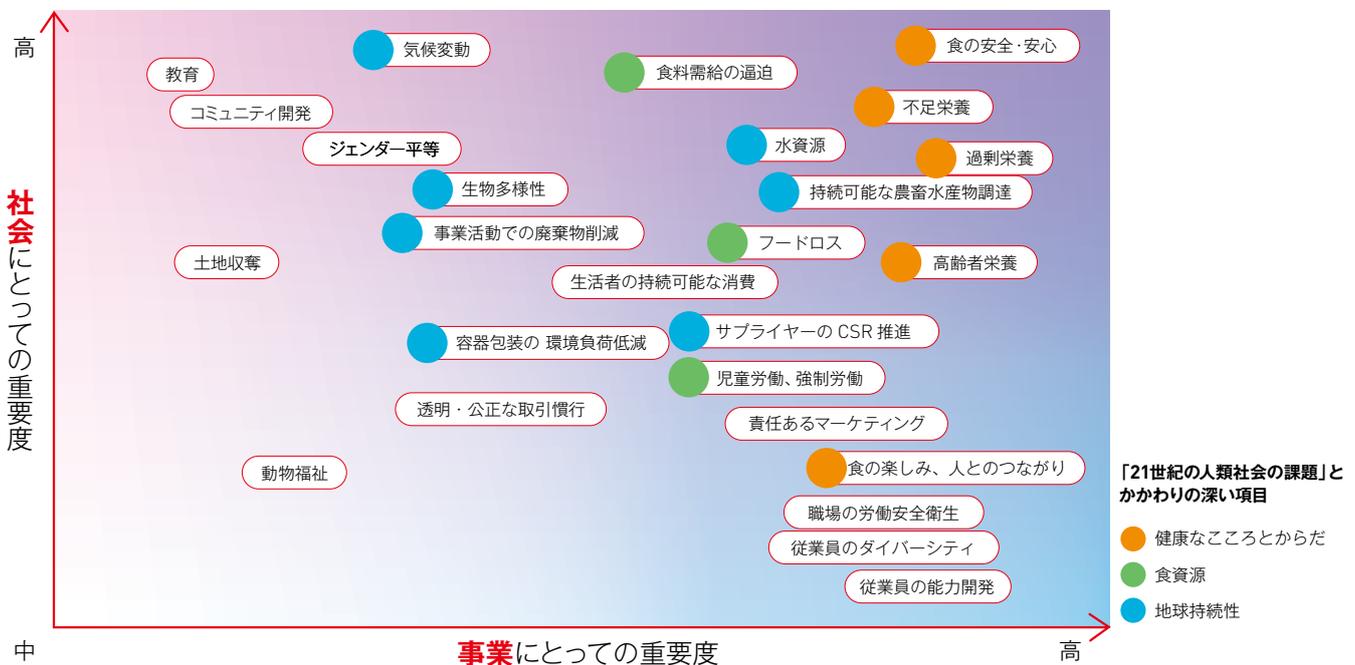
味の素グループでは、社内外の対話を通じて、創業100周年にあたる2009年に「21世紀の人類社会の課題」を整理しました。これは、「地球持続性」「食資源」「健康なところからだ」の3つに対して、特に事業を通じて貢献していく意思を表したものです。

これらの課題解決は、味の素グループが社会と共存・発展するた

めの前提条件であるとともに、味の素グループならではの技術力や製品開発力、バリューチェーンへの提案を通じた貢献にもつなげていけるよう、各部門の計画に反映されています。

また、重ねた対話や議論を集約し、社会課題と事業の関係性を再整理して、マテリアリティ項目の抽出・整理を進めています。2015年にマッピングを整理し、それに基づく活動を推進してきましたが、新しい社会動向を踏まえて2017年に見直しを図りました。

## ■ 味の素グループが検討・抽出したマテリアリティ項目のマッピング(2017年改訂)



## ■ マテリアリティ項目の更新

2015年に味の素グループのマテリアリティ項目を整理して以降、パリ協定の発効や国連持続可能な開発目標(SDGs)の採択など、サステナビリティに関連する世界的な動きが続いています。またグループ内でも、「2017-2019中期経営計画」を策定する過程で、マテリアリティに関しても議論が重ねられました。

こうした動向を踏まえ、マテリアリティ項目をアップデートし、今後の活動に反映する必要があると私たちは考えました。

マテリアリティ項目を更新するにあたっては、社内各部署から収集した意見、および社外有識者56名にご協力いただいた「SDGsと味の素グループへの期待」に関するアンケートで集められた指摘・意見等を参考にしました。

[主な変更点]

### 各項目の重要度の再検討

「持続可能な農畜水産物原料の調達」「サプライヤーのCSR推進」「フードロス」「水資源」「児童労働・強制労働」は、事業とのかかわりが深く、社外からも率先して取り組むべきとの期待が高かったため、重要度を高めた。

### 項目の追加

中期経営計画やSDGsの観点を反映し、「食の楽しみ、人とのつながり」「生活者の持続可能な消費」「容器包装の環境負荷削減」を追加した。

### 表現の変更など

「人財育成」を「従業員の能力開発」「従業員のダイバーシティ」に分割する、「腐敗防止」を「透明・公正な取引慣行」に変更するなどの修正を行った。

# 重要課題の特定プロセス

味の素グループでは、事業を通じた価値創造を行うにあたって、活動の重要度・優先度を明確にするために、社外の有識者・専門家から様々な形でご意見を伺ってきました。

また、その都度、最新の社会動向や味の素グループの活動への評価などもいただいています。

いただいたご意見は、事業や計画策定などの際に社内で共有し、社会からの期待に応える活動ができるよう反映をしています。



## 有識者に対するアンケート調査

(これまでに社内ワークショップやダイアログ、社外での様々な活動でご一緒させていただき、味の素グループの活動にご理解をいただいている方を対象としています)

実施時期 2016年8月

対象 社外有識者56名

### マテリアリティ項目の見直しに関する回答の一部

事業の観点から「社会にとっての重要度」で食や栄養に関する項目が高くなっているが、もう少し長期の視点で考えるならば、気候変動、水資源、廃棄物削減などのテーマが高くなってもおかしくないと思われる

右上の方にマッピングされている項目は、事業とのかかわりが強く重要。それを継続し、発展させていくためには、インプットとなる「持続可能な農畜水産物調達」がより重要な課題となるのではないかと

企業のバリューチェーンにおける人権リスクはサプライチェーンで高くなっているため、「サプライヤーのCSR推進」は社会・事業のどちらの軸でもっと高くあるべき

### マテリアリティ項目の中で、重要度を上げるべきと回答された主な項目(複数回答)

